【立場が人を変える】　　※ 2020 年 脳溢血となった私の記憶のある内に整理

◆私は小 6 年途中まで
友人の自転車の後を足で走って遊んでおり、
なので？ 各運動会では断トツで TOP が多い。
持久力がやたらと付いたのは その為であった。笑
自宅にお金が無い、訳では無いが（父は零細企業を経営）
「**学級委員長になったら自転車を買ってやるぞ**」
と父親に言われていた為である。（小学校低学年から）
父も祖父等も尋常小学校等にて（地元：九州八女郡）
「級長」を繰り返していた為でもあろう。

◆私は小 5 年まで勉強はさておいてイタズラばかり、国語・算数・理科・社会が 100 点満点中 20 点平均位の私には当時「学級委員長に立候補は成績の悪い自分には無理」と当然のように考えていた。
小学校時代のほとんどは、例えば放課後の掃除当番等「ホウキを振り回しチャンバラごっこ」等ばかりの記憶。

◆小 5 年時 母のアドバイスで勉強方法を変えた等 国語・算数・理科・社会の各成績が凄い勢いで上がる。
小 6 年の時 父が話していた通り **自転車欲しさ** に勇気を出して学級委員長 立候補の手を挙げた。
「よっちゃんが本当に学級委員長？」の声があちこちから聞こえたような気がしたが 6 年 2 組の男女の投票（自分の想像以上）が私に集まり、はじめて学級委員長になれた。 （父は自転車をすぐに買ってくれた）
学級委員長になった途端に私は、掃除の時間「ホウキを持って遊んでいる人」を逆に「ホウキで叩いてでも掃除をさせる」ように大変身。**立場が自分を変える** とは、、当時 自分こそが一番ビックリしていた。 笑

◆私の次男 中 2 年時に「生徒会長になぜ立候補？」と聞く。（何を買ってほしい？と聞かないで、、良かった）
「最近の生徒でしっかりして欲しい人が何人もいるから。そして化学・科学を進歩させて、ゆくゆく世界に貢献して行きたいんだ」との答え。自分の息子ながら「スゴイ」、当時の欲ばった自分と比較してしてしまった。笑

◆「世界中を自転車で走りたい」と私は高校時代（1980 年前）本気で考えていた。それを躊躇させたのは当時『月刊 サイクルスポーツ』から取材・掲載されていたガッツ国松氏の世界自転車旅行中・トルコでの事故死。
憧れの人・尊敬する人の事故死は、私の人生を非常に大きく変えた。 その悲劇と裏腹に 大学応援団に入団。
結果として 利他の心を自然と実行できる、本気で感動する、大変貴重な体験・経験ができた。

◆父の経営する零細企業は「兄が継ぐ」と幼少期より思っていた。（年子で一浪していた為 大学で同学年）
しかし兄は、父の会社の入社を避けて大手出版社に就職してしまった。
ゆえに、次男である私が急遽 父の小社を継がざるを得ない事となる。（3 社以上からの入社勧誘を断り）
父は私が 25 歳になった直後に脳梗塞により退陣。（約 2 年半 営業を父からどうにか引き継いでいて、良かった）
（私はゆくゆく密かに年下数名と社会貢献・店頭公開の会社を自ら作り大金持ちになる計画、を諦めた）
結果、偶然か必然か「日本中の古文書を後世に残す」事を真剣に行える立場となる。（**利他**の心が成す業）

◆ボランティア活動も含め、社会貢献に関わる事をほとんど断らず「これも何かのご縁」として歩んで来れた。

その人の「人生」を決めて行くのは、「立場」「考え」が起因するその時その時の判断であろう。